

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471100139
法人名	社会福祉法人 白鷗
事業所名	グループホーム 葉山の里
訪問調査日	2017年10月17日
評価確定日	2018年3月23日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 29 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471100139	事業の開始年月日	平成15年12月1日	
		指定年月日	平成15年12月1日	
法人名	社会福祉法人 白鷗			
事業所名	葉山の里 グループホーム			
所在地	(240-0113)			
	三浦郡葉山町長柄 253-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成29年10月7日	評価結果 市町村受理日	平成30年10月17日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方が、ご家庭と同様な生活を出来るように出来る限りの支援を行うと共に、自由な雰囲気と安心できる家庭的な環境があります。外出行事を多く行い、買物・外食と家庭に居られた時と同じ状況を行います。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成29年10月17日	評価機関 評価決定日	平成30年3月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●グループホーム葉山の里は社会福祉法人百鷗 (HAKUOU) の経営です。法人は「①利用者の尊厳を守り地域社会での自立を支援します。②地域に開かれ愛され、信頼される法人を目指します。③高齢者福祉の原点に立ち返り「温もり、優しさ、安心、安全」をコンセプトに個の意思を尊重した利用者本位の質の高いサービス提供に努めます。」の3項目を理念に掲げ、葉山町と逗子町にデイサービスと居宅介護事業所を併設した特養 葉山清寿苑と逗子清寿苑を中核事業として運営しています。グループホームは葉山の里とびやくしん苑の2事業所を展開しており、葉山町でのグループホームとして地域の方々との触れ合いを重視した運営が行われています。「葉山の里グループホーム」はJR横須賀線「逗子駅」からバスに乗り、「永柄橋」下車して徒歩3分の所に位置し、緑豊かな静かな住宅街の中にあり、目の前の通りは小学校の通学路になっており、登下校時には子供の声等が聞こえる環境下にあります。

●事業所では、快適生活の為のバリアフリー化と日常家事への積極的参加と外出による外環境への継続な接触に努め、高齢者のライフスタイル改革に配慮した取り組みとして、地域の方々との触れ合いを重視したコミュニティーの場作りにも尽力しています。ケアについては、本人本位の自己決定への取り組みを大切にしながら、安全で明るく・快適なホーム作りにより主眼を置き、常に質の高いサービス提供のもと一人一人が誇りを持って自己決定が出来る生活のため、「立位補助・食事介助・清拭・入浴・更衣」等の支援と共に「レク、外食、趣味、家事手伝い、各種催事の参加」等の支援でも本人本位を尊重した自己決定となることを目指し過度にならない介助支援が行われています。

●職員資質向上の取り組みでは 管理者の指導の下に家族とのコミュニケーションを重視して重度化する利用者への快適生活維持の最適サポートの為の認知症の理解やその介護技術(マニチュールド 認知症の方との関係性を劇的に変えるケア)を職員共通の認識にして内外研修を受講して知識向上に努められ、また法人の年間研修計画を利用し階層別、分野別の研修に夫々の自己の職位に適したテーマを選び受講してスキルアップに努められています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム葉山の里
ユニット名	一色

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としての理念、事業所としての事業計画を作成し、より地域に密着したホームを実践している。	「利用者の個々の尊厳を守り地位社会での自立を支援します・地域に開かれた愛され信頼される法人を目指します・高齢者福祉処遇の原点に立ちかえり温もり優しさ安心安全をコンセプトにしてこの意思を尊重した利用者本位の質の高いサービスに努めます。」とした理念を下に事業計画が作成され、スタッフ会議で話し合われ管理者をはじめ全職員で共通理解をして、目標に向け理念と計画に沿ったケアが実践されています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	下町内会に加入し、月1回の定例会に参加したり、「ふれあいサロン」や「貯筋体操」に出席し、昼食を囲み地域の方々との交流を図っています。町内行事には極力参加しています。	町内会に加入しており、月1回の定例会議に参加をしています。自治会主催の「ふれあいサロン」や「貯筋体操」にも参加して、カラオケや体操等しながら地域の方との交流を楽しんでいます。夏祭りには事業所の駐車場を提供し神輿の披露を受けて、集まった子供たちにお菓子の提供もしています。その他、ボランティアでは歌やダンス等の方の来訪があります。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回の定例会に出席し、苑の状況を話したり、支援方法を地域の皆様に説明している。地域の方々の協力により、家庭での不用品（タオルやシーツ・新聞紙）の回収板の効果で大変助かっています。	/		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回開催 町の職員、民生委員、家族の代表、利用者2名参加して頂きサービスの報告や活動状況、検食して頂きサービス向上に努めている。グループホームでの現状を報告しています。	4ヶ月に1回自治会役員、民生委員、葉山町職員、地域包括支援センター職員、利用者2名及び家族、管理者の参加で運営推進会議が行われています。会議ではホームの運営状況と今後の行事予定なども報告して参加者から質問、意見、助言、提案等もいただきながら、話し合を行い、結果を運営に反映させるようにしています。また、会議の内容は議事録に残し全職員に周知して事業所が地域と共にある事を認識するに努めています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村職員とは、日頃連絡を密にして情報を共有しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	葉山地区でのグループホームは葉山の里とびやくしんの苑の2事業所であり、葉山町役場の高齢福祉課とは密なる協力関係が出来ています。研修情報、空き室情報等の諸連絡を行い、用件に応じて不明点・疑問点を聞いたり相談をしています。事業所からは施設の様子等も伝えていきます。また入所照会についても緊急性、必要性を考え受けています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアにとりくんでいます。今後も利用者、家族が安心して暮らしていける環境づくりに取り組んでいきたいです。	法人及び事業者内研修で身体拘束・虐待防止に関する研修は定期的に行われています。職員会議等でも話し合う機会を設けて、身体拘束・虐待禁止についてのマニュアルや事例に基づいた職員への周知が行われ、日頃の言葉かけや、禁止行為とそのデメリットを共有認識しています。玄関施錠は道路に面している立地から施錠を行い、徘徊行動などの兆しが見えたら職員の見守りで対応し、利用者が安心して過ごせるように支援しています。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないよう会議やミーティング等を利用して職員全員で学ぶ機会を持ち虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてもっと学ぶ機会を作り活用していきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に説明を行い理解、納得を図っている。また現時点での不安や希望を伺い、取り組み方の確認を行っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんには食事や外出先の希望を伺い、極力実施に向け取り組んでいる。ご家族には書面や電話、面会時に状況を伝え、意見や要望を伺い対応するよう心がけている。	重要事項と利用契約、運営規定に苦情相談窓口と担当者を記し、利用契約時にその対応の説明を行っています。家族とは面会時や電話などで、管理者をはじめ職員から日常的な利用者の生活状況の報告を始めとしてコミュニケーションを密にして、食事や外出先の希望と意見も伺うようにしています。さらに、運営推進会議時にも意見、苦情等も伺って、記録に残し職員会議等で検討をして、回答と共に運営に反映するようにして、毎年1回利用者満足度調査も実施しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回経営会議やスタッフ会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	事業所では職員に食事係り、環境係、レク係など係り別に主担当を決めて活動が行われ、各分野から提案、意見を聞いています。その他 毎月の経営会議やスタッフ会議を通じて職員の日々の観察に基づく気づきや意見提案を自由に表出できるようにしています。また、管理者と職員間は日頃から気軽に話せる関係も構築されて意見や提案を聞いています。さらに契約更新時の面談でも聴く機会が設けています。	今後の継続	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の実施や、職員と積極的に会話をしたり和やかな雰囲気作りを心がけ、働きやすい職場環境に努めています。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受けるよう取り組んでいるが継続的には外部研修の人員確保がむずかしい状態である。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者と交流する機会を作っているが現実的には参加する機会が取れないのが現状である。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の希望を出来る限り聞きだす努力をし、確保する為の関係に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や困っている事、要望などを気軽に話して頂けるような雰囲気作りや環境整備に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族と良く話し合い必要とする支援を見極め対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間を共有しながら食事の下ごしらえや買物・外食外出やドライブ散歩など暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら共に本人の希望を聞きながら支えていく関係を築くよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にしてきた馴染みの人や関係が継続できるような支援に努めている。又ホームへの面会、電話連絡等時間帯も自由にして支援している。	入居者がこれまでに大切にきて来た馴染みの人との関係が途切れないように、手紙の宛名書きや投函、電話の取り次ぎ、訪問時も明るく出迎える等、気兼ねなく来訪できるように配慮しています。その他、利用者の嘗ての楽しかった出来事の「今の思いを聞いて」出来るだけ思いに沿った支援を心掛け、家族の協力も得ながら馴染みのレストランでの外食、外泊の支援も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日が楽しく暮らして頂けるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを断ち切らないよう相談や支援に努める気持ちはあるものの、なかなか積極的なアプローチは出来ていない。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いを伺い、出来る事から希望を叶えるように努め困難な場合は良く検討していく。	アセスメントから生活歴などと共に本人の日々の「一寸した弾みから出る言葉」「家族の言葉」をケース記録に留め本人の今の思いを知るように努めています。思いを伝える事が出来ない人からは日頃の支援の中での「仕草や表情」での汲み取りに加え、家族等からの情報も加味して思いを押し量っています。食に関する思いが多く職員間の共有を図り本人本位を第一とした想いに適う支援として、出前や外食支援も時々行っています。モニタリングでは本人の思いに叶った支援が出来ているの確認も行っています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の思いや家族から、よく話を効き生活しやすい環境を整えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースで過ごして頂いている。日々の生活を通し（レクリエーション等）で利用者の現状把握に努めている。体調は睡眠状況により、無理な対応は行わず臥床時間を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の意見を聴き、ミーティングや会議等で情報を共有しながら現状に即した介護計画を作成するように心がけている。	利用当初は事前情報に基づき計画をたて様子を見て、変化のある場合は都度の見直しを基準として、概ね6ヶ月毎にカンファレンスを開き職員の日々の生活状況記録を基に意見を出し合い、計画作成者を中心に看護師見解や家族の要望も聞いて検討しながら、その方の残存能力に見合った計画を作成しています。出来た介護計画は、本人と家族に確認を頂いてプランとして実施しています。モニタリングは3ヶ月毎に行い計画とのズレが生じないように努めています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のスタッフ会議やミーティング、必要時検討会議等で情報を共有しながら現状に即した介護計画の実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々とのふれあいを大切にしてふれあいサロンに参加したり公園に出掛けたりして楽しみのある生活が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師とのインフォームドコンセントを大切に適切な医療が受けられるよう支援している。 主治医と家族と看護師と調整しながら医療ケアを実施している。	家族・本人の希望に沿った医療機関の選択を原則として、入居前からのかかりつけ医の受診は家族の対応を基本としています。近所の方が多く関係から従来のかかりつけ医に往診を受けている方が多くいます。医師とのコンタクトを密にして、生活情報の提供や受信結果の情報を共有しながら適切な医療が受けられるよう支援しています。要望に応じて通院介助も行っています。歯科は月1回の往診、診察と契約看護師の週1の往診もあり、インフォームドコンセントを大切に利用者との医療的 management と適切な医療支援が行われています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中での体調を出来る限り細分化して看護師に相談・看護師との申し送りノートを活用し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者や家族との情報交換や相談に努め、良い関係作りを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際重度化した場合の家族の意向を伺いチーム全体で支援に取り組んでいる。又月1回入退所検討委員会を開催地域関係者と共にチーム全体で支援に取り組んでいる。状況が厳しくなり始めたら改めて家族の意向を確認し、主治医・家族と密に連絡を取り合い対応している。	重度化した場合の方針については入居契約時に重度化・終末期ケアについて、事業所の出来ること、出来ない事を家族・後見人に説明して同意書を交わしています。看取りを希望される方には医師または看護師が終末期と判断した時点で、月1回開催の法人全体で行う入退所検討委員会（家族・事業所責任者・医師・民生民生委員・役場福祉課）のチームで話し合い、種々選択肢を示し最善の方法を見出して支援に努めています。		今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止に気を使い内部研修等により急変を回避できるように実践力を身に付けているが定期的には行っていないし、全ての職員ではない。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の訓練は定期的に行っており地域住民の方に参加もして頂き取り組んでいる。しかし地震や水害等の災害に対する対策は取り組めていない。	災害その他の緊急事態に備え、必要な設備を整えるとともに、関係機関と連絡を密にし予め防災計画を作成し年2回以上入居者及び職員等の訓練を行います。と重要事項に記され、事業所では年数回にわたり地域の方々の参加と消防署立会いのもと通報・避難・消火の訓練を行っています。非常用備蓄では食料・水・乾電池・オムツなど3日分の在庫を確保して、設備ではスプリンクラー、火災自動通報装置、発電機等も備えており、災害対策が講じられています。管理者の地域訓練への参加で地域との協力体制も構築されています。地震、水害対策を今後の取り組みの課題としています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、対応を行うように努めている。言葉使いや接遇に対して採用時研修を受けている。会議やミーティングにおいても、言葉掛けや気配りに注意するよう確認している。	法人の年間研修計画に倫理・接遇・権利擁護等が組み込まれており、毎年職員に周知徹底しています。言葉遣いの乱れは不適切支援に繋がる事を職員共通の認識として人格を尊重し、利用者の身になり、誇りやプライバシーを損ねる事の無い言葉遣いと対応を心がけています。呼称は「さん」付けを基本にしていますが、時には親しみをもった本人の希望も取り入れた呼称で呼ぶ場合もあります。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を聞きなるべく希望を叶える様な支援を働きかけている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に希望に沿った支援を行うよう努力している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が着たい衣類を聞いたり、季節に合ったものを選んで提供している。その人らしい身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いたり支援している。身だしなみに関心のない方には清潔さを保って頂けるような支援を心がけている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聴いてメニューに取り入れています。食事委員会で話し合ったり、食事アンケートを定期的実施し、好きなメニューに取り入れるよう努めている。食事の準備は難しいが、テーブル拭きや配膳・下膳は取り組んでいただいている。	毎朝食と日曜日の3食は近所のお店から食材を購入して調理しています。その他の食事は食事委員会での話し合いや、アンケートで希望を聞いてメニューに取り入れた食事が、業者の食材提供で職員が調理して行われています。手伝いが出来る人には食卓拭き、下膳、片付けなど手伝いをいただいています。また、月1回は趣を変えた食事として出前を取ったり、外食に出かけ利用者の要望に応えるようにして食事が楽しみなものとなるよう支援しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日2回の申し送りにて、一人ひとりの体調を把握し、栄養面、食事摂取量、水分量などに気を配り支援している。状況により補食や水分を摂ってもらえない方にはゼリーや水分補給用ドリンクを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い口腔内の清潔を維持しています。個々の状況に応じた口腔ケアを行い嚥下体操等も実施している。希望者には週に一度歯科往診にて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄状況を把握している。排泄介助の際には出来る限りプライバシーに配慮して支援している。日中はトイレ、夜間はポータブルトイレへの介助を行っている。	排泄チェック表を活用し、その人に合った声かけ・見守り、定期的なトイレ誘導を行いトイレでの自立排泄に向けた支援に努めています。オムツを使用することで経済的、精神、衛生的にも負担になることもあるので、極力オムツを使用し無い生活に注力しています。失敗した際には、他の人の目に触れない配慮の下での下着取替えや清拭等を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い繊維質の野菜や海草等メニューに取り入れ便秘予防に努めたり水分摂取量が少なくならないよう気配りを行い便秘予防として階段運動やストレッチ、ボール回し運動等を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時には職員と会話をしたり楽しくくつろいで入浴して頂けるよう心がけている。お風呂に入りたがらない方には、時間をずらしたり職員を替えて声かけします。又入浴剤で気分転換して頂く様支援している。	週3回の入浴としていますが、時には利用者希望に合わせた柔軟に対応した入浴支援も行われています。入浴は清潔保持のみならず、視診による打ち身・あざ・湿疹などの発見がある事を踏まえて、無理強いはしませんが、アプローチの工夫を心がけてバイタルチェックと共に入浴を促し、支援が行われています。季節にはゆず湯、菖蒲湯なども取り入れ一緒に歌や会話しながら入浴が楽しめるように支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者により異なり、又体調によっては早く休まれる時もあります。安心して休めるように室温や空気の入れ替え等に心がけています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノート、連絡ノート、申し送りや会議等で職員全員で把握している。服薬時は複数の職員で確認し支援している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者の意見を伺い楽しい日々を送って頂けるよう支援している。好きな事をして過ごせるような環境づくりを行っている。外出先の希望を出来るだけ実現させるよう取り組んでいる。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の対応は困難であるが、近所を散歩されたり、買い物ドライブ等意見を伺いながら戸外に出掛けるような支援をしている。月1回ふれあいサロンに出かけて地域の方々との交流を楽しまれている。	毎日とまではいきませんが、外出希望者には近くの散歩コースに出かけたり、買いに物にお連れしています。その他、地域のふれあいサロンにも参加して地域の方と交流することで社会性を維持できるよう支援しています。季節に合わせて桜、菖蒲等の花見、ミカン狩り等の企画を立案し車を使っての外出の機会を作るようにしています。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持能力が異なりますが能力のある方には（コンビニ・福祉まつり等）自ら支払いをされるなど行って頂いています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お友達や家族、親戚の方から電話がかかってきたり、かけたりされている。携帯電話を所持されている方、手紙や葉書のやり取りをされている利用者もいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活観を取り入れ利用者が居心地良く過ごせるような工夫に努めている。季節感を感じて頂けるように玄関入り口には季節の花々、玄関内や階段には利用者の手作り小物やタペストリー等飾り居心地の良い共用空間を作り楽しんで頂いている。	館内は清掃が行き届き騒音や臭も無く、適度な湿度・温度管理が職員によって行われています。リビングには、テーブルやソファが置かれ、食事準備風景等も見られ又、玄関入口には季節の花等も生けられて、安らぎが感じられる工夫がされています。階段壁面には皆で作成したタペストリーや、行事時の写真、季節感のある装飾が、全体バランスを考慮しながら行われています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は自由にお部屋に戻られ一人の時間を大切にされている。又お話されたい方のテーブルに行かれ会話等楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地良く過ごせるような使い慣れた物や好みのもの活かし生活されている。又自分の好みの物を飾ったりしている。清潔感のある環境を心がけている。	使い慣れた家具などを持ち込む事で自宅と同様な感じを得られる様にお勧めしています。、今まで大切にしてきた、鏡台、仏壇・位牌や思い出の写真などが持ち込まれ、夫々の思いの生活拠点が演出されています。また居室には洗面台、エアコンが備えられていて、利用者と共に働く職員の清掃支援で室内は清潔に保たれ、快適で居心地よく過ごせる設えとなっています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で安心できる環境づくりを心がけ目の高さにお知らせメッセージを張ったり問いかけにすぐ対応できるように努力しながらなるべく自立した生活が遅れるような支援に努めています。		

目 標 達 成 計 画

事業所

葉山の里グループホーム

作成日

2017年10月17日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	緊急災害時の対応訓練	緊急災害時避難方法を全ての職員が対応できるようにする。	避難訓練の回数を増やすと共に、火災だけではなく天災の訓練も実施する。	29年度中
2	13	外部(内部)研修への継続参加が出来ていないのが現状	研修に参加できるような体制作りや苑内での内部研修を実施していく。	外部研修への参加や月1回の会議を利用して継続的に委員会を設けて実施していく。	29年度中
3	49	外出支援が少ない	なるべく利用者の希望に沿った外出支援をして行きたい。	ご利用者の希望を聞き、外食や買物を実行していく。	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム葉山の里
ユニット名	森戸

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としての理念、事業所としての事業計画を作成し、より地域に密着したホームを実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	下町内会に加入し、月1回の定例会に参加したり、「ふれあいサロン」や「貯筋体操」に出席し、昼食を囲み地域の方々との交流を図っています。町内行事には極力参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回の定例会に出席し、苑の状況を話したり、支援方法を地域の皆様に説明している。地域の方々の協力により、家庭での不用品（タオルやシーツ・新聞紙）の回覧板の効果で大変助かっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回開催 町の職員、民生委員、家族の代表、利用者2名参加して頂きサービスの報告や活動状況、検食して頂きサービス向上に努めている。グループホームでの現状を報告しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村職員とは、日頃連絡を密にして情報を共有しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアにとりくんでいます。今後も利用者、家族が安心して暮らしていける環境づくりに取り組んでいきたいです。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないよう会議やミーティング等を利用して職員全員で学ぶ機会を持ち虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてもっと学ぶ機会を作り活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に説明を行い理解、納得を図っている。また現時点での不安や希望を伺い、取り組み方の確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんには食事や外出先の希望を伺い、極力実施に向け取り組んでいる。ご家族には書面や電話、面会時に状況を伝え、意見や要望を伺い対応するよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回経営会議やスタッフ会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の実施や、職員と積極的に会話をしたり和やかな雰囲気作りを心がけ、働きやすい職場環境に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受けるよう取り組んでいるが継続的には外部研修の人員確保がむずかしい状態である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者と交流する機会を作っているが現実的には参加する機会が取れないのが現状である。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の希望を出来る限り聞きだす努力をし、確保する為の関係に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や困っている事、要望などを気軽に話して頂けるような雰囲気作りや環境整備に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族と良く話し合い必要とする支援を見極め対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間を共有しながら食事の下ごしらえや買物・外食外出やドライブ散歩など暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら共に本人の希望を聞きながら支えていく関係を築くよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にしてきた馴染みの人や関係が継続できるような支援に努めている。又ホームへの面会、電話連絡等時間帯も自由にして支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日が楽しく暮らして頂けるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを断ち切らないよう相談や支援に努める気持ちはあるものの、なかなか積極的なアプローチは出来ていない。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いを伺い、出来る事から希望を叶えるように努め困難な場合は良く検討していく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の思いや家族から、よく話を効き生活しやすい環境を整えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースで過ごして頂いている。 日々の生活を通し（レクリエーション等）で利用者の現状把握に努めている。 体調は睡眠状況により、無理な対応は行わず臥床時間を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の意見を聴き、ミーティングや会議等で情報を共有しながら現状に即した介護計画を作成するように心がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のスタッフ会議やミーティング、必要時検討会議等で情報を共有しながら現状に即した介護計画の実践や見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々とのふれあいを大切にしてふれあいサロンに参加したり公園に出掛けたりして楽しみのある生活が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師とのインフォームドコンセントを大切に適切な医療が受けられるよう支援している。 主治医と家族と看護師と調整しながら医療ケアを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中での体調を出来る限り細分化して看護師に相談・看護師との申し送りノートを活用し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者や家族との情報交換や相談に努め、良い関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際重度化した場合の家族の意向を伺いチーム全体で支援に取り組んでいる。又月1回入退所検討委員会を開催地域関係者と共にチーム全体で支援に取り組んでいる。状況が厳しくなり始めたら改めて家族の意向を確認し、主治医・家族と密に連絡を取り合い対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止に気を使い内部研修等により急変を回避できるように実践力を身につけているが定期的には行っていないし、全ての職員ではない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の訓練は定期的に行っており地域住民の方に参加もして頂き取り組んでいる。しかし地震や水害等の災害に対する対策は取り組めていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、対応を行うように努めている。言葉使いや接遇に対して採用時研修を受けている。会議やミーティングにおいても、言葉掛けや気配りに注意するよう確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を聞きなるべく希望を叶える様な支援を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に希望に沿った支援を行うよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が着たい衣類を聞いたり、季節に合ったものを選んで。その人らしい身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いたり支援している。身だしなみに関心のない方には清潔さを保って頂けるような支援を心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聴いてメニューに取り入れています。食事委員会で話し合ったり、食事アンケートを定期的実施し、好きなメニューに取り入れるよう努めている。食事の準備は難しいが、テーブル拭きや配膳・下膳は取り組んでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日2回の申し送りにて、一人ひとりの体調を把握し、栄養面、食事摂取量、水分量などに気を配り支援している。状況により補食や水分を摂ってもらえない方にはゼリーや水分補給用ドリンクを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い口腔内の清潔を維持しています。個々の状況に応じた口腔ケアを行い嚥下体操等も実施している。希望者には週に一度歯科往診にて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄状況を把握している。排泄介助の際には出来る限りプライバシーに配慮して支援している。日中はトイレ、夜間はポータブルトイレへの介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い繊維質の野菜や海草等メニューに取り入れ便秘予防に努めたり水分摂取量が少なくならないよう気配りを行い便秘予防として階段運動やストレッチ、ボール回し運動等を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時には職員と会話をしたり楽しくくつろいで入浴して頂けるよう心がけている。お風呂に入りたがらない方には、時間をずらしたり職員を替えて声かけします。又入浴剤で気分転換して頂く様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者により異なり、又体調によっては早く休まれる時もあります。安心して休めるように室温や空気の入れ替え等に心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノート、連絡ノート、申し送りや会議等で職員全員で把握している。服薬時は複数の職員で確認し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者の意見を伺い楽しい日々を送って頂けるよう支援している。好きな事をして過ごせるような環境づくりを行っている。外出先の希望を出来るだけ実現させるよう取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の対応は困難であるが、近所を散歩されたり、買い物ドライブ等意見を伺いながら戸外に出掛けるような支援をしている。月1回ふれあいサロンに出かけて地域の方々との交流を楽しまれている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持能力が異なりますが能力のある方には（コンビニ・福祉まつり等）自ら支払いをされるなど行って頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お友達や家族、親戚の方から電話がかかってきたり、かけたりされている。携帯電話を所持されている方、手紙や葉書のやり取りをされている利用者もいます。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活観を取り入れ利用者が居心地良く過ごせるような工夫に努めている。季節感を感じて頂けるように玄関入り口には季節の花々、玄関内や階段には利用者の手作り小物やタペストリー等飾り居心地の良い共用空間を作り楽しんで頂いている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は自由にお部屋に戻られ一人の時間を大切にされている。又お話されたい方のテーブルに行かれ会話等楽しまれている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地良く過ごせるような使い慣れた物や好みのもの活かし生活されている。又自分の好みの物を飾ったりしている。清潔感のある環境を心がけている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で安心できる環境づくりを心がけ目の高さにお知らせメッセージを張ったり問いかけにすぐ対応できるように努力しながらなるべく自立した生活が遅れるような支援に努めています。			

目 標 達 成 計 画

事業所

葉山の里グループホーム

作成日

2017年10月17日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	緊急災害時の対応訓練	緊急災害時避難方法を全ての職員が対応できるようにする。	避難訓練の回数を増やすと共に、火災だけではなく天災の訓練も実施する。	29年度中
2	13	外部(内部)研修への継続参加が出来ていないのが現状	研修に参加できるような体制作りや苑内での内部研修を実施していく。	外部研修への参加や月1回の会議を利用して継続的に委員会を設けて実施していく。	29年度中
3	49	外出支援が少ない	なるべく利用者の希望に沿った外出支援をして行きたい。	ご利用者の希望を聞き、外食や買物を実行していく。	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。